

11月号では、1年生の授業を紹介します。

★ がきや まさる 我喜屋 優 監督から学ぶ

【参考資料】

- ・「逆境を生き抜く力」(我喜屋優・著 WAVE 出版)
- ・『非常識』(我喜屋優/田尻賢誉・著 光文社)



【ねらい】 自主自律・向上心

【概要】 史上6校目の甲子園春夏連覇を果たした興南高校野球部・我喜屋監督の話。

大会92回の歴史で春夏連覇を果たせたのはたった6校だけ。確率にすると10万分の1。我喜屋監督はそれを就任3年目で成し遂げた。就任3ヶ月で、24年ぶりに甲子園出場。3年目で春夏制覇。周囲はその快挙を“我喜屋マジック”と呼んだ。

しかし、我喜屋監督は「生活態度をきちんとさせたただけだ」と言う。監督に就任することが決まったとき、「どんな練習メニューにしようか」「どうやって強くしようか」と胸を膨らませたものの、察に行ってみると、「これでは、野球が強くなるはずはない!」という状況を次々と知ることになる。部屋は散らかりっぱなし。寮全体も荒れ放題。夜はだらだら起きていて、朝はまともに起きられず、朝ごはんは食べない。嫌いなものは平気で残し、片付けもいい加減。

そこで、部員に以下のようなことを示した。

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| ① 時間→5分前行動。 | ② 挨拶→誰にも大きな声で。 |
| ③ 食事→残さない。音を立てて食べない。片付ける。 | ④ 部屋→整理整頓。 |
| ⑤ 早寝早起き→6:00起床。6:15~散歩。 | ⑥ 椅子の出し入れ→音を立てない。 |
| ⑦ 身なり→眉毛を細くしない。 | ⑧ 服装→ユニホームのシャツをズボンに入れる。 |

短期間で技術が簡単に向上するわけではない。「できなかった小さなことをできるようにしただけ」だと監督は言う。短期間で甲子園出場の切符を手にした選手たちは、「生活態度をきちんとすることの大切さ」を理解するようになる。

監督が「レギュラーにしない人」として次の4つのことを挙げている。

- | | |
|---------------|----------------------------|
| ① 小さなことを守れない人 | ② 下積み(練習)や人が嫌がること(雑用)をしない人 |
| ③ 成績に1や2のある人 | ④ レギュラー以外の部員のことが考えられない人 |

小さなことをおろそかにし、ルールが守れない人は野球が上手でも試合には出さなかった。たとえ、それがレギュラーの選手であっても。春の優勝メンバー数名が眉毛を細くしたときは、一切練習には入れず、ごみ拾いや草むしりをさせた。夏の大会で2分遅れてきた生徒がいたときは、バスには乗せず置いていった。「一つ一つを見れば小さなことかもしれないが、こういう小

小さな約束が守れないものに限って大事な試合で必ずミスをする」と監督は強く言った。

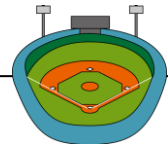
甲子園を「大きな花」と例えるなら、生活態度・練習は「根っこ」だと考え、根っこがきちんとしていればいつでも花を咲かせることができるけれど、根っこがきちんとしていなければ花は咲かないと考えたのだ。だからこそ、グラウンド整備やごみ拾いなど根っこの仕事をきちんとしていた夏の甲子園4番バッターの真栄平(まえひら)選手がどんなに絶不調に陥っても、根っこの部分を信じ、試合に出し続けた。次第に本調子を取り戻した真栄平選手は、大会最大の激闘となった試合で勝ち越しのタイムリーヒットを打ち、ヒーローとなった。

監督自身は、高校で野球部に途中入部。周りは野球経験者ばかりで、最初はレギュラーなんて夢のまた夢。試合に出るチャンスもなかった。それでも、雑用を一生懸命やり、どんなにきつい練習にもついていった。3年時には4番、キャプテンを任せられるようになり、甲子園に出場し、ベスト4に。しかし、その経験は社会人野球では通用せず、4年で北海道に転勤を命じられた。これは、「(プレイヤーとして)もうお前はいらない」と言われているも同然。それでも、厳しい環境で練習に励み、2年後には全国都市対抗野球大会で優勝。「**逆境を友人にすれば宝となる**」。辛いときこそ成長のチャンスと考えたのだ。

興南高校野球部は100名を超える部員がいても3年間辞める人はほとんどいないという。監督が辞めないように、狭いグラウンドでも100人以上の部員が試合を意識した練習ができるように工夫しているからだ。

「人生のスコアボードは一生続く。その長い長いスコアボードでずっと戦っていかなければいけない」。野球は9回裏で終わっても、人生はもっと長いから、3年間続ければ先輩後輩合わせて200人以上のネットワークができ、将来への人脈づくりにもなるとの考えもあるのだという。「レギュラーにしない人」で「③成績に1や2がある人」を挙げているのも、自分が就職して数年で方向転換を命じられたように、人生の転機で対応できる力を養って欲しいとの願いがあるからなのだ。野球で花を咲かせるより、後の人生で花を咲かせることを大事と考え、小さなことに全力で取り組むことを要求し、社会に出て役立つ姿勢を育てているのだ。

**すべては今(高校生活・高校野球)ではなく、これからの続く長い長い人生のため。
そこに妥協はない。**



《授業の感想・・・》

- 今回の授業は、小さなことをしっかりやれば努力はうそをつかないということを教えてもらえる授業でした。僕は、小さなことを心がけようと努力していますが、この先生の言うことよりもはるかに小さい努力だと気づきました。周りのことを考えなかつたりということがあるので、今回の授業をきっかけとし、次の行動につなげたいです。
- 生活態度を改めれば、誰でも人生の花を咲かせることができるんだなと、勉強になりました。日頃の積み重ねで、今後の未来は変えられることがわかりました。この先、どんな逆境があっても、くじけず、我喜屋さんのように頑張ろうと思いました。

- 我喜屋さんの指導の仕方を知って、そんなに難しいことではないけど、すごいなと思いました。自分たちの今と比べたとき、あたり前のことができている人もいるけど、もちろんできていない人もいて、全員でそれをやるってことはすごいことだと思います。また、先生の言葉を素直に受け止めることも大切なんだと思いました。小さなことが大きなものになるということがわかったので、私もがんばりたいです！
- 最初は、とても荒れていた部活なのに、我喜屋さんがたった3ヶ月で甲子園出場を成し遂げたのはびっくりしました。それに、変えたのは練習メニューではなく、生活態度というのも驚きました。“甲子園で大きな花を咲かせるには、根っこである「態度」「習慣」をしっかりさせなければならない”ということをお話す監督、一生懸命、まじめにやっている選手をレギュラーにすると生徒のことをしっかり見てくれている監督は、本当にいい監督だなと思いました。今日の授業で、私は、「大きな花を咲かせるためには根っこをしいかり」という気持ちを学びました。
- 私は、この勉強をして、もっと生活態度をよくしようと思いました。この我喜屋監督が言ったことは、どんなスポーツでも通用すると思うので、これからは、私もきっちりとやっていきたいと思っています。あと、どんなつらいことがあっても、けっしてあきらめないようにしたいです。
- 自分は、小さなことできちんと出来ていないことがあるので、もっときちんと行動できるようにしたいです。”根っこ”をもっと強くしていきたいと思いました。
- このチームの監督は本当にすごい人だなと思いました。私もそんな風になりたい。中間テストが花だとしたら、家庭学習が根っこだから頑張りたいです！
- 今日の授業で、小さなことをきちんとするだけで大きなことにつながっていることがよく分かりました。ふだんの生活の中で、いけない所は今のうちに直していきたいと思いました。そうすることで、今できる”根っこ”が作れると思うからです。
- どんなスポーツも、生活態度や練習態度がしっかりしていないと上手くなれないことが分かりました。どんなにその人が下手でも、あたり前のことをしっかりやっていたら努力は実るんだなと思いました。
- 我喜屋さんは、態度をしっかりするという基本的なところを直すという誰にもでもできることを大切にしました。ほくは、この人が言っていることみたいに、2・3年生になっても根っこを整えたいと思う。
- 我喜屋監督の言う通り、「あたり前のことをあたり前にやる」ということは大事なんだとわかりました。

切り取り線

※「道徳だより」や道徳授業へのご意見・ご感想などをお聞かせください。

【提出は担任にお願いします。】

● 参考資料…

人生はいいことばかりではない。物事というのは、うまくいかないことのほうが圧倒的に多い。壁にぶつかったときに、どうするか。逃げてつづけてしまう人。立ち向かっていく人。無為無策に過ごしてしまう人。そのとき、その人の本当の姿が見えるのだと思う。

しかし、そこには逆説も生まれる。逆境から逃げ、ラクなほうに向かおうとすれば、人生はいつまでたっても、嫌なこと、つらいこと、苦しいことだらけなのだ。逆境から逃げれば逃げるほど、追いかけてくる。いつまでたってもついてくる。もし、立ち向かっていけば、嫌なこと、つらいこと、苦しいことは少なくなっていく。そしていつのまにか、それを楽しめるようになってくる。苦労したことこそが、人生最良の思い出に変わる。逆境がいつのまにか変わるのだ。生まれて死ぬまで、ずっと順風満帆な人生を歩める人など、ほんのひと握りだ。しかし、苦労のない人生など、私は送りたいとは思わない。苦しいときがあったからこそ、うまくいったときのよろこびが何倍にもなるからだ。嫌なことから逃げようとすると、いつまでも嫌なままだ。嫌なことに立ち向かえば、いつかは乗り越えられる、自分をかわいそうだと思えば、みじめな気持ちになる。自分は恵まれていると思えば、幸せな気持ちになれる。人より劣っていると思ってあきらめたら、差はどんどん広がっていく。優れた人に近づきたいと思えば、差は少しずつ縮まっていく。

うまくいかないことがあって、どうしたらいいかわからない人は、まずは目の前のほんの小さなことをおろそかにしていないか、考えてほしい。早寝早起をする。整理整頓を心がける。バランスの良い食事をきちんととる。まずはこんな当たり前なこと、ささいな事を再確認して欲しい。そのうえで、わずかでもいいから前に進んでみよう。はるか遠くにある目標を目指すよりも、目の前の小さなことに真摯に取り組むことだ。人が嫌がるすすんでやってみることだ。たとえ1ミリずつでもいい。自分のできることから一步一步進めていく。それこそが逆境を変えるコツなのだ。

【『逆境を生き抜く力』はじめに より】

～我喜屋監督語録～

- きちんとした生活はめんどくさいです。でも、嫌なものは慣れさせるしかない。無意識にできるまで言い続ける。
- 何気なくやって送っている生活こそが、その人をつくる。普段の生活が、その人の人生の「根っこ」となる。
- 一生懸命やったという言葉は、結果が出たときに初めて使える。一生懸命やることと、ただやることとは違う。
- 逆境と友達になれ。そうすれば、最後には宝物になる。おまえたちはその宝物をいとも簡単に捨てて、逃げまくってるよ。
- 「社会に役立つ人物」
 - ・自分より他人のために働ける
 - ・小さなことでも真摯に取り組む
 - ・素直に人の話が聞ける